

このファイルは投稿原稿の見本です。
原稿を作成する際のテンプレートと
しても使用できます。

1

表紙

2

3

原稿種類：その他

4

東北森林科学会誌の執筆要領改訂について

5

On the Revision of “Instruction for Author” of Tohoku Journal of Forest Science

筆頭著者は会員であること。

7

阿部俊夫^{*1}・齋藤智之¹・坂本知己¹

朱書きでの字体指定や図表位置指定は、投稿時には不要。
受理された後、最終原稿提出時に加筆すること。

8

Toshio Abe^{*1}, Tomoyuki Saito¹ and Tomoki Sakamoto¹

9

10 ^{*1}連絡・別刷り請求先 (Corresponding author) E-mail toshioa@affrc.go.jp

11 ¹森林総合研究所東北支所 (020-0123 盛岡市下厨川字鍋屋敷 92-25)

12 Tohoku Research Center, Forestry and Forest Product Research Institute (FFPRI),

13 92-25 Nabeyashiki, Shimokuriyagawa, Morioka, Iwate 020-0123, Japan

14

「論文」原稿では、英文要旨も付けること。

1 要旨

2

3 投稿原稿を執筆する際の見本、ひな形として本ファイルを作成した。本文は 2016 年 8

4 月 25 日改訂の執筆要領に若干の補足説明を加えたものである。本ファイルは新執筆要領

5 に従って作成されており、書式についても既にスタイルが設定されているため、スタイル

6 リストから選択するだけでよい。なお、執筆要領の主な改訂点は以下の通りである。(1)

7 左余白に行番号を付記することを明記、(2) SI 単位を基準とすることを明記（森林科学で

8 慣用する単位は認める）、(3)図の表題と説明は別紙にまとめず図の下に記載、(4)引用文献

9 リストの雑誌名は基本的に略記する、(5)投稿時と受理後に必要な情報を分けて記載、(6)手

10 書き原稿に関する記述の削除。

11

12

丸数字 (① ② ③) など 2 バイト系の特殊文字の使用は避けてください。文字化け等トラブルが起こる場合があります。

1 I. はじめに

2
3 東北森林科学会誌の執筆要領は、第 21 会大会時の編集委員会（2016 年 8 月 25 日開
4 催）において改訂がおこなわれた。本ファイルは新たな執筆要領に従って作成した投稿原
5 稿の見本であり、原稿作成のひな形としても利用可能である。次章以降の本文は執筆要領
6 に若干の補足説明を加えたものであり、最後には引用文献リストの記載例も掲載してい
7 る。また、当誌で必要な書式についてはスタイルを設定してあるので（東森－大見出し、
8 東森－本文、東森－引用文献など）、該当する書式をスタイルリストから選択すればよ
9 い。各スタイルにはアウトラインレベルも設定してあるので、ナビゲーションウィンドウ
10 で見出し一覧を表示させ、項目の順序を変更することもできる。

11 投稿原稿のなかには体裁上の問題で何度も修正が必要なケースもあるが、本ファイルの
12 利用により体裁に関する問題がなくなることを期待している。

13 II. 用紙と書式

14
15
16 原稿は、ワープロソフトを使用し、A4 版の用紙に横書きで、上下左右それぞれ 30 mm
17 程度の余白をとり、横 40 字×縦 20 行（800 字）に整えたものとする。文章は口語体で、
18 新仮名づかいとし、学術用語以外は常用漢字を用いる。また、学術用語もできるだけ日本
19 語を用いる。句読点は、「和文」では、（。）と（，），「英文」では（.）と（,）とする。
20 動物・植物の和名はカタカナ書きとし、学名はイタリックとする（例えば、ブナ (*Fagus*

1 crenata)。これらの字体の指定は、太字指定、数式の字体などとともにワープロソフトの
2 フォントで設定する。単位は SI 単位を基準とするが、森林分野で慣例的に用いられる単
3 位については使用を認める (例えば, ha, °, d, mm など)。

4

5

III. 原稿の形式

6

7 「論文」「報文」の形式は (1)表題等, (2)要旨, (3)本文, (4)引用文献, (5)図表の順と
8 し, 表紙, 和文要旨, 英文要旨 (「論文」の場合), 本文, 引用文献の順に通しページを付
9 け, 左余白には行番号を付記する。「論文」「報文」以外の原稿については特に形式を定め
10 ない。

表-1

11

12 1. 表題等

図-1

13 原稿の 1 枚目は表紙とし, 原稿の種類, 表題, 著者名, 所属を和英併記する。また, 表
14 題および著者名に付随する脚注もこのページに記載すること。継続研究の論文等の表題
15 は, 主題の 1 報, 2 報などの表示は (I), (II) などとし, 副題をつける。所属機関の英文表
16 記については, 正式名称を記述し, 略称は使用しない。

17

18 2. 要旨

19 「論文」には, 500 字以内の和文要旨および 250 語以内の英文要旨を付ける。英文要旨
20 については, 原則として投稿前にネイティブの校閲を受けること。「報文」には 400 字以

1 内の和文要旨を付ける。要旨中では図，表，文献，数式などの引用は避け，改行しない。
2 和文要旨には 1 行目中央に太字指定で「要旨」の大見出しを付け，1 行あけて改行後，1
3 文字あけて要旨を書く。英文要旨には見出しを付けず，冒頭に著者名，表題，誌名を付
4 け，15 文字分あけて要旨を書く。この場合，著者名と表題の間にはコロン「:」を入れ，
5 表題は太字指定とし，末尾にピリオド「.」を付ける。誌名は「Tohoku J. For. Sci.」と
6 し，太字指定とする。いずれの要旨も本文とは別葉とする。

7

8 3. 本文の構成

9 「論文」「報文」では，大見出しは，例えば，「I. はじめに」，「II. 材料と方法」などと
10 し，行中央に太字指定で配置する。なお，大見出しの上下の行はそれぞれ空白行とする。
11 文章は空白行の次の行から段落を変え 1 文字あけて書き始める。なお，最初の大見出し
12 「I. . . .」については，上に空白行を配置する必要はない。

13 中見出しは，「1.」，「2.」で始め，太字指定とする。文章は改行し，新たな段落として
14 1 文字あけて書き始める。中見出し以降の項目分けは，順次 1)，(1) の順に下がっていく。
15 中見出し同様それぞれ改行し，段落を変えて 1 文字あけて書き始める。両括弧以降の下位
16 区分には，i), ii), iii), iv) . . . (半角英字 i と括弧の組み合わせ。全角のローマ数字は
17 使わない)を用いる。なお，文章中，追い込みで箇条書きする場合にもこれらを用いる。

18 「論文」「報文」以外の原稿の場合は特に様式を定めない。

19 4. 文献の引用

20 本文中での引用は，原則として該当人名に（年号）あるいは事項に（人名，年号）をつけ

1 て引用する。3名以上の著者名については「・・・ら」または「・・・ et al.」とする。
2 末尾の引用文献リストには通し番号を付けず、共著者を含めた著者名のアルファベット
3 順、同一名のもは刊行年の古い順に配列する。同一名で同一年号の場合は、年号のあと
4 に発表順に a, b, c を付ける。文献名の略記法は慣例にならう。引用文献の巻、号について
5 は、巻通しページがある場合は巻のみとし、無い場合は巻（号）を併記する。ただし、社
6 会科学系の論文や報文等で注が必要なものについては、本文に通し番号で位置を指定し、
7 末尾に「引用文献・注」としてまとめて記載する形式も認める。

8 1) 本文中の引用例

9 「森山・清川（1995）は・・・明らかにされている（本多, 1965, 1966a; 小川ら,
10 1969)。」

11 2) 引用文献リストへの記載

12 以下、雑誌中の論文や単行本、ウェブサイト上の情報などを引用する場合の記載方法に
13 ついて記す。なお、文献の記載例は末尾の「引用文献（記載例）」にも載せてあるので参考
14 にされたい。

15 (1) 雑誌の場合

16 著者名（発表年）表題. 雑誌名 雑誌の巻数：開始ページ-終了ページ

17 <例>

18 樋口裕美・小野寺弘道（1993）高木性落葉広葉樹の耐雪性の解明 (I) 高木性数種の根

19 元曲がり特性. 日林誌 75 : 56-59

20 河原輝彦（1988）複層林誘導のための林内照度のコントロール. 森林立地 30(1) : 10-

1 13

2 Reich PB, Borchert R (1984) Water stress and tree phenology in a tropical dry forest
3 in the lowlands of Costa Rica. J Ecol 72: 61-74

4 **(2) 単行本の場合**

5 著者名（発表年）本の表題. 出版社名

6 <例>

7 由井正敏（1988）森に棲む野鳥の生態学. 創文

8 Sharpe CF (1968) Landslides and related phenomena. Coops Square Publishers, Inc

9 **(3) 単行本中の論文の場合**

10 著者名（発表年）論文の表題.（本の表題. 編者名, 出版社名） 開始ページ-終了ペー

11 ジ

12 <例>

13 鎌田直人（1991）ブナ林の食葉性昆虫類.（ブナ林の自然環境と保全. 村井宏ほか編,

14 ソフトサイエンス社） 216-222

15 **(4) ホームページの場合**

16 作成者または管理者名（発表年）表題（所在, アドレス）, 閲覧日

17 <例>

18 林政課森林保全グループ（2008）松くい虫被害の防止対策について（青森県庁ホーム

19 ページ, <http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/matukui.html>), 2010年8月

20 1日閲覧

1 表題，所在等，ホームページ中で明らかにされていない情報については省略することが
2 できる。作成者・管理者が不明な場合など，情報源としての信頼性が不十分なものは引用
3 しないこと。

4

5 5. 図および表

6 図（写真を含む）・表は必ず A4 判で作成し，表題にはそれぞれ通し番号（図-1,表-1 など）
7 を付け 1 ページずつ別葉とする。各図・表は上端欄外に筆頭著者名，通し番号を付ける。
8 なお，和文原稿においても図・表の表題，説明に英文を併記することができる。

9 1) 図

10 印刷したときの品質が鮮明なものとする。図の表題および説明は図の下に記載する。な
11 お，カラー写真・図，アート紙，原図のトレース等を希望する場合の経費は実費を著者負
12 担とする（投稿規定「原稿の長さ」参照）。

13 2) 表

14 一つの表の大きさは原則として 1 ページ以内に印刷できるものとする。1 ページを超え
15 る表については，二つ以上に分割しなければならない。ただし，著者が費用の全額を負担
16 する場合には，折り込みの表などを認めることができる。表の表題は表の上に，説明は脚
17 注として下に記載する。表中のタテ罫線は原則として省き，ヨコ罫線もできる限り省略す
18 る。

19

20

IV. 英文論文等の執筆

1

2 英文論文等，英文原稿の執筆にあたっては，日本林学会英文誌「Journal of Forest
3 Research」の要領を参照することとする。ただし，引用文献リストについては上記「文献
4 の引用」の項にある指示に従う。

5

6

V. 受理後の最終原稿の提出

7

8 原稿受理後，最終原稿には下記の例にならって朱書きでイタリック，太字，上付きなど
9 の字体を指定する。

10 Fagus crenata → *Fagus crenata*

11 Introduction → **Introduction**

12 SO₄²⁻ → SO₄²⁻

13 さらに，図・表の挿入したい位置を本文の右欄外に図-1，表-1のように朱書きで指定す
14 る。また，体裁等について別に編集委員会が指示した場合には，これに従った最終原稿を
15 提出する。図・表を含む原稿一式の電子ファイルを提出する（図や表のファイル形式につ
16 いて別途指示する場合がある）。電子ファイルは編集主事宛電子メールの添付ファイルと
17 してもよいが，ファイルサイズが大きく添付が不可能な場合は CD-R 等の電子媒体により
18 郵送する。なお，原則として電子媒体の返却はしない。

19

20

VI. 数式, 変数等の記載方法

1

2 数式や変数等の記載について執筆要領では特に説明はないが、現在の編集事務局として
3 は次のように考えている。執筆の際、参考にしてもらえれば幸いである。

4 物理量や統計量などの変数についてはアルファベットの文字で表し、イタリック表記と
5 する。例えば、樹高 H 、流量 Q 、生物個体数 N 、相関係数 r 、確率 p などである。数字や
6 数学関数、演算記号、化学式については通常の小文字とする ($Y = 3.89 X^{1.67}$, $\sin \theta$,
7 $\log X$, $p < 0.01$, H_2O など)。これら以外の添字 (X_i の i 等) や係数、物理定数などの記載
8 方法は各分野の慣例に従うこと。

9 なお、変数名としてアルファベット複数からなる略号を用いることは、原則として避け
10 るのが望ましい。例えば、胸高直径を “ DBH ” と記載した場合、“ $D \times B \times H$ ” の意味と誤
11 解される恐れもある (D や D_{BH} であれば問題ない)。ただし、略号を用いた方が変数の意
12 味が分かりやすく、かつ誤解の生じない文脈であれば、編集委員の判断で使用を認める場
13 合もある。

14

15 Ⅶ. おわりに

16

17 本学会誌の執筆要領は、日本森林学会誌を参考に作られているが、図や原稿を手書きし
18 ていた時代の名残のような事項も含まれていたため、若い執筆者には分かりにくいもので
19 あった。一方で、本来は必要と考えられる事項が記載されていない問題もあった。このよ
20 うな背景から今回の改訂に至った次第である。

- 1 塩見晋一・尾崎真也 (1997) 兵庫県におけるコナラとミズナラの集団枯損の実態. 森林応
- 2 用研究 6: 197-198
- 3 鈴木祥吾・八木橋勉 (2015) 森林総合研究所東北支所構内におけるウソによるサクラの芽
- 4 の摂食. 東北森科誌 20: 49-53
- 5 Suzuki W (2002) Forest vegetation in and around Ogawa Forest Reserve in relation to
- 6 human impact. (Diversity and interaction in a temperate forest community.
- 7 Nakashizuka T, Matsumoto Y eds, Springer) 27-41
- 8 Tsukamoto J (1991) Downhill movement of litter and its implication for ecological
- 9 studies in three types of forest in Japan. Ecol Res 6: 333-345
- 10 横山誠二・佐々木尚三 (2013) コンテナ苗植栽試験についてーコンテナ苗生長状況ー. 北
- 11 方森林研究 61: 101-104
- 12 由井正敏・鈴木祥吾・中村充博 (1993) キツツキ類によるマツノマダラカミキリの捕食実
- 13 態と保護対策. 森林防疫 42: 105-109
- 14

図表ページは、右上に筆頭著者名と図表の通し番号を記す。行番号は不要。

阿部俊夫ら，図-1

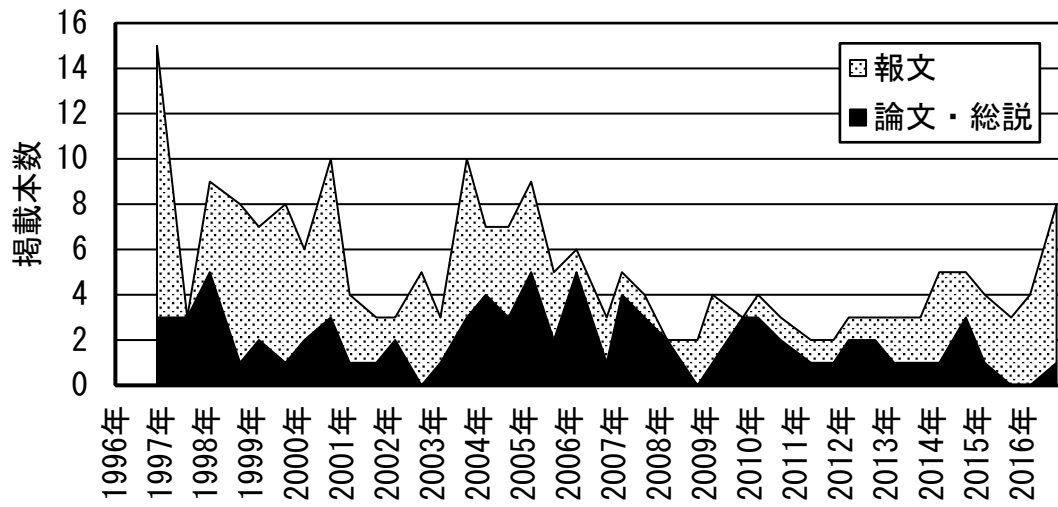


図-1 論文等の掲載本数の推移

表-1 各巻（年）の論文等の掲載本数

年	巻	論文・総説	報文	計	備考
1996	1	3	12	15	1号のみ発行
1997	2	3	0	3	以後、年2号発行
1998	3	6	11	17	
1999	4	3	12	15	
2000	5	5	11	16	
2001	6	2	5	7	
2002	7	2	6	8	
2003	8	4	9	13	
2004	9	7	7	14	
2005	10	7	7	14	
2006	11	6	3	9	
2007	12	7	2	9	
2008	13	2	2	4	
2009	14	4	3	7	
2010	15	5	2	7	
2011	16	2	2	4	東日本大震災発生
2012	17	4	2	6	
2013	18	2	4	6	
2014	19	4	6	10	
2015	20	1	6	7	
2016	21	1	11	12	
合計		80	123	203	